



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 73

May 2019

今号のトピックス

『国際藻類・菌類・植物命名規約（深圳規約）2018 [日本語版]』の
 予約特価販売のご案内があります → 14 ページ
 第 18 回大会関連のご報告、2019 年度の野外研修会の予告など、
 報告やお知らせが多数あります。お見逃しなく。

目 次

諸報告

| | |
|--------------------------------------|----|
| 2019 年度日本植物分類学会第 18 回大会（東京・八王子）の報告…… | 2 |
| 2019 年度大会発表賞の報告 …………… | 5 |
| 2019 年度大会発表賞受賞者喜びの声 …………… | 5 |
| 2019 年度第 1 回評議員会議事抄録 …………… | 7 |
| 2019 年度総会議事抄録 …………… | 9 |
| 2019 年度第 2 回メール評議員会議事抄録 …………… | 10 |
| 2019 年度予算 …………… | 10 |
| 2018 年に到着した交換図書一覧 …………… | 12 |

お知らせ

| | |
|---|----|
| 2019 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ …………… | 13 |
| 日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜）のお知らせ …………… | 14 |
| 『国際藻類・菌類・植物命名規約（深圳規約）2018 [日本語版]』 予約特価販売のご案内 …………… | 14 |
| 東京大学植物標本室（総合研究博物館）の一時閉室のご連絡 …………… | 15 |

書評

| | |
|------------------|----|
| 『みえ生物誌 植物』 …………… | 15 |
|------------------|----|

| | |
|------------|----|
| 会員消息 …………… | 16 |
|------------|----|

諸報告

2019年度日本植物分類学会第18回大会（東京・八王子）の報告

第18回大会実行委員長 村上 哲明（首都大学東京 牧野標本館）

事務局長 加藤 英寿（同上）

1) 概要

日本植物分類学会第18回大会が2019年3月6日（水）から9日（土）の日程で、東京都八王子市にある首都大学東京・南大沢キャンパスにて開催されました。参加総数は278名で、内訳は一般191名（うち当日参加59名）、学生87名（同14名）でした。研究発表では、47題の口頭発表と、68題のポスター発表がありました。そのうち、口頭発表30題、ポスター発表27題が、大会発表賞の審査対象となりました。3月8日には、首都大生協にて懇親会を開催いたしました。参加者数は、一般112名、学生44名でした。3月9日には、口頭発表と同じ会場で公開シンポジウム「東京の植物の今を語る」を開催しました。ここでは5名の演者に、多摩地域・伊豆諸島・小笠原諸島など東京都の多様な環境下に生育する野生植物の紹介、さらにはそれらの保全、あるいは東京都のシダ植物についてなど、バラエティに富んだ話題を提供していただきました。現場で野生植物と密に向き合っているからこそできるとも興味深い講演をして下さったのみならず、多くの一般聴衆を集めることにも大いに貢献して下さった内野秀重先生（八王子市長池公園）、石橋正行先生（伊豆諸島植物研究会・いそぎく）、岡武利先生（日本シダの会）、照井伸介先生（神代植物公園・植物多様性センター）には、心よりお礼申し上げます。

一方、私たち実行委員会としましては、2018年に完成した牧野標本館・別館と、そこに増設された新しい植物標本庫を会員の皆さまにお披露目したくて、第18回大会を首都大で開催させていただいた次第です。大会期間中に多くの参加者の方々に牧野標本館・別館を実際に見ていただくことができ、とても嬉しく思っております。今後も、研究活動等で牧野標本館をご活用いただければ幸いです。

2) 収支

第18回大会の収支は、以下の通りです。公立大学である（文科省からの支配は弱い）首都大学東京では、学会の年次大会等で教室などの大学施設を使用しても、多くの国立大学のように教室使用料を大学から請求されません。ポスターボードを業者から借りるために予算を使ったものの、予算面での運営は楽でした。公開シンポジウムは首都大との共催としましたので、講演者への謝金なども大学の予算から支払ってもらえました。看板類も、加藤事務局長がキャンパス内に生えている竹を利用して手作りしましたので、経費が節約できています。さらに多くの当日参加もしていただいたため、約34万円の黒字となりました。結果として、学会からの大会補助金10万円を使わずに、大会を運営することができました。なお、黒字分につきましては、半額を次回の第19回大会実行委員会に、そして残り半額を学会に寄附する予定です。

今回、一つ問題だなと感じたのは、大会のための郵便振替口座の開設でした。ゆうちょ銀行は、集金だけが目的の振替口座の新設は認めない方針に変更しているようです。口座開設の申請後に、大会実行委員会が定期的に活動している証拠を出せ（例えば、委員会議事録などを提出するように後から求められました）など、次々に新しい要求をされて、なかなか口座の開設を認めてくれませんでした。今後、ますます振替口座の新規開設が難しくなることが予想されます。学会として大会運営用の振替口座を常設しておいて（第18回を名称に入れておかなければ、口座を次回大会に引き継いだのではないかと思います）、毎年、口座の代表者と払出支店を変更することで対応するなどの方法も検討した方がよいかもしれません。是非、学会執行部で、適切な対応策についてご検討いただければ幸いです。

第 18 回大会収支決算報告概要 (単位: 円)

| 収入 | | 支出 | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 参加費 | 991,000 | 会場費 * | 130,000 |
| 懇親会費 | 1,007,000 | 印刷費 | 143,640 |
| 弁当代 | 94,000 | 文具等購入費 | 111,934 |
| 要旨集販売 | 2,000 | 懇親会費 | 879,560 |
| 出店代 | 6,000 | 弁当代 | 94,000 |
| | | 茶菓費 | 24,528 |
| | | アルバイト賃金 | 370,000 |
| | | 繰越金 | 346,338 |
| 総計 | 2,100,000 | | 2,100,000 |

(* ポスターパネル・レンタル費)

3) 大会組織と会場

第 18 回大会実行委員会は、首都大学東京・大学院理学研究科生命科学専攻・植物系統分類学研究室の教員で組織しました。同研究室に所属する日本学術振興会・特別研究員 (RPD) の小栗恵美子さん、研究生の中村朗子さん、秘書の上田京子さん、そして理工学研究科生命科学専攻/理工学系生命科学コースの大学院生・学部生にも、要旨集の作成から大会運営まで、いろいろとお手伝いしてもらいました。また、特に大会参加者による牧野標本館・別館の見学にあたっては、牧野標本館・専門職員の持田幸良さんと支援スタッフの五味富恵さん、中田章子さん、小玉ゆかりさんにも協力してもらいました。

今大会では、各種委員会の会場としても、本学の教員が予約すれば基本的に無償で使用させてもらえる首都大学東京・南大沢キャンパス内の大会議室と牧野標本館・別館に新しくできた講義室を利用しました。口頭発表の会場には南大沢キャンパスで 2 番目に大きな文系エリアの教室 (420 席)、ポスター発表の会場には理系エリアの 8, 9 号館 の 1 階アリーナを使用しました。ポスター発表の会場は、例年、とても混雑するので、十分なスペースが取れるように口頭発表会場から徒歩で 10 分弱かかる (南大沢駅側の首都大・南門からも距離的に離れた) 理系エリアの方に設置させていただきました。同じく理系エリアにある牧野標本館・別館を大会参加者の皆さまに見ていただくことも、今大会の重要な目的の一つだったので、会場間の移動でご不便をおかけしたと思いますが、ご容赦いただければ幸いです。もう一点、9 号館の大屋根 (ガラス張り) から雨漏りがしているところがあって、ポスター会場の一部が濡れてしまいました。修繕が間に合わず、ご不便をおかけしたこと、お詫び申し上げます。休憩室とクローク兼大会本部は、口頭発表会場の大教室の両側の 2 つの教室 (いずれも 213 席) に設置し、休憩室には物販スペースも用意しました。グッズ販売 (今回は植物関連の商品) の包みやさん、そして牧野図鑑でおなじみの北隆館さんが出店して下さいました。別にポスター会場にも休憩室を設置しました。スペースに余裕があったことはよかったと思っています。

4) 研究発表と公開シンポジウム

発表賞の評価対象となる発表のプログラム編成においては、一般の発表と同様に、内容ごとにある程度まとまるようにしました。同じ研究グループによる発表が続かないようにとの留意は今回は特にしませんでした。それが目立つ感じではなかったと考えています。ただ、口頭発表賞のエントリー数が多くて、大会初日だけでは収まらず、二日目の朝にも一部のエントリー発表を配置せざるを得ませんでした。その結果、大会発表賞の受賞者選考は、大会二日目のお昼休みに実施することになり、選考委員の皆さまにはご負担をおかけすることになりました。ただ、大会発表賞へのエントリー数が増えるのは学会として望ましいことでしょうから、今後もこのようにせざるを得ないのではないかと予想します。

一方で、ポスター発表賞へのエントリー発表については、すべて奇数番号に編成して、大会初日前半

のコアタイムから発表ができるようにしました。例年、エントリー者は熱心に発表をするので、自分のコアタイムが終わってもポスターの前で発表し続ける人が少なくありません。そこで、公平を保つために、エントリー者は全員、奇数番号（大会初日の発表コアタイムは前半）に配置しました。また、大会発表賞の選考委員は自分のポスター発表をする暇がなかったり、興味のあるポスター発表を聞きに行く時間が取れなかったりしますし、エントリー者が他の人のポスターまで見る余裕がないということも起こります。そこで、短時間ながら大会二日目の夕刻に、2回目のポスター発表の時間を設定しました（コアタイムは、偶数番号を先にしました）。ポスター発表賞の受賞ポスターには、花をつけておきましたので、そのお披露目にもなったと思います。

口頭発表の進行が遅れ気味になることはやむを得ないのですが、それを少しでも軽減するために、タイムキーパーによる3鈴は発表持ち時間の15分ではなくて、14分30秒に設定させていただきました。それ以上に、座長の皆様が活発な議論を促進しつつも、適切に各セッションを進行して下さいましたので、ほぼスケジュール通りに大会を進めることができました。座長を引き受けて下さった先生方には、心より感謝申し上げます。

もう一つ今回は、大会初日のお昼休みにランチョンセミナーとして、日本学術振興会・学術システム研究センター研究員の塚谷裕一先生（東京大・理・生物科学）に、学振の側から科学研究費補助金（科研費）をどのように考えているかについての講演をしていただきました。基盤研究（海外学術研究）の種目がなくなって、困っておられる会員の方も少なくないと思います。今回、短時間とはいえ意見交換ができて、本当によかったと考えております。わざわざ講演をしに来て下さった塚谷先生に感謝いたします。



公開講演会の様子

5) 懇親会

懇親会にも、想定以上に多数の当日参加をいただいたため、さらには大学の生協食堂での懇親会なのに、揚げ物と炭水化物ばかりにならないようにとの、ある意味「無理なお願い」をしたため、参加者（若い人も多い）に対して食べ物の量が少なくなってしまいました。懇親会が始まって、20分ほどでほとんど食べる物がなくなってしまったのは、大変申し訳なく思っております（必要な量の判断を誤りました!）。焼きそば等は追加注文したのですが、焼け石に水の感じでした。飲み物については、ビール・ワイン・焼酎・ソフトドリンク等は飲み放題で生協にお願いしてありましたが、さらに地元・奥多摩の小澤酒造の日本酒（澤乃井など）の一升瓶を、菅原敬大会会長が別に6本用意しておりましたので、不足はしていなかったと思います。ただ、お酒ばかり飲むことになってしまって、悪酔いされた参加者の方がいらっしまったかも知れません。特に食べ物が十分でなかったことは、お詫び申し上げます。

6) おわりに

上記以外にも、大会初日の朝、大会受付の廊下の電灯が付かなかったり、大会会場が寒かったり、Wi-Fiが繋がらない（接続法についての案内が不十分でした）など、問題は色々ありました。普段、私たちが使っていない文系エリアの教室を使っての大会運営となりましたので、私たちが自分たちで気づけなかったことも含めて、行き届かなかったことが色々あったことと思います。それにもかかわらず、大会が盛会に終わりましたのは、ひとえに参加して下さった皆様のおかげです。末筆になりましたが、実行委員会一同、心より御礼を申し上げます。

2019 年度大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 藤井 伸二

第 18 回大会（2019 年 3 月 6-9 日）の発表賞には、合計 57 題（口頭発表 30 題、ポスター発表 27 題）のエントリーがありました。

13 名の選考委員は、各発表について「研究内容」と「プレゼンのうまさ」の 2 つの指標によって採点を行い、集計結果を踏まえた合議のもとに口頭・ポスターの各 2 題が大会発表賞に選ばれました。プレゼンテーションのレベルは全体として高く、複数の審査員の評価が高くなる要素（長年の懸案課題の解消、研究のデザイン性、材料選びのセンス、網羅性、労を惜しまない地道なデータ収集、今後の発展が大きく期待されるテーマ）を含んだ発表が選ばれました。4 名の受賞者のみなさま、おめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。なお、受賞者の方々には慣例に従って来年度の大会においての審査委員をおつとめいただく予定です。これからの大会において発表賞にエントリーされるの方々には、賞の運営に十分にご理解とご協力をお願いいたします。

口頭発表部門（大会プログラム掲載順）

Atsushi Sugano (Graduate School of Agriculture, Hokkaido Univ.) “Species-complex formation by two rhododendrons from Hokkaido and West Japan with their allied species in the northeast Asia continent and their migrations into Japan via northern and southern routes”

設楽 拓人（筑波大・院・生命）「本州中部山岳におけるチョウセンミネバリの新産地と群落特性」

ポスター発表部門（大会プログラム掲載順）

須貝 杏子（島根大・農生命系）「母島列島の乾性林に分布するシマホルトノキの遺伝的タイプ」

矢野 梓水（千葉大・園芸）「日本産スゲ属アゼスゲ節 25 種の瘦果外部および解剖学的形態と瘦果化石分類への応用」

2019 年度大会発表賞受賞者喜びの声

ニュースレター幹事 山本 薫・堤 千絵

発表受賞者のみなさまの喜びの声をお伝えいたします。

菅野厚志さん

口頭発表賞をいただきました、北海道大学の菅野厚志です。私は、日本では、北海道に分布するエゾムラサキツツジと西日本に分布するゲンカイツツジを対象として研究を行なっています。本発表では、分子系統解析及び形態調査によって、北海道のエゾムラサキツツジと西日本に分布するゲンカイツツジが、東北アジア大陸部の同種・近縁種を考慮すると、種複合体を形成することを明らかにしました。また、この種複合体の分散経路については、大陸から日本へ南北 2 ルートで進入したことが示唆されました。今後、同様の北海道と西日本及び東北アジア大陸部の植物に着目し、日本の植物相の隠れた構造を明らかにするような研究に取り組みればと思います。また、本研究は非常に多くの方々のご協力があり、東北アジア大陸部の網羅的サンプリングを行なうことができました。厚く御礼申し上げます。



エゾムラサキツツジ

設楽 拓人さん

この度、口頭発表賞を頂きました筑波大学（現所属：琉球大学）の設楽拓人です。本研究が口頭発表賞に選ばれたということで、とても驚いております。

私は、本州中部山岳地域におけるチョウセンミネバリ（カバノキ科）の分布について発表しました。本種は、朝鮮半島や極東ロシア沿海州などに多く分布し、日本でも岐阜県、長野県、栃木県などに分布することが報告されてきました。しかし、日本の図鑑にはほとんど掲載されておらず、個体数も少ないと考えられ、生態情報が不明瞭でした。今回、本州中部山岳でチョウセンミネバリを探し回った結果、これまで考えられてきたよりも広域に分布し、個体数も多いことがわかりました。

まだちゃんと図鑑に掲載されていない植物が身近に存在することに心躍らせながら調査を続けた結果、このような賞をいただけたことに、純粋に一研究者、そして植物好きとして嬉しく思います。また、研究や調査にご協力いただいた多くの方々に御礼申し上げます。



チョウセンミネバリ

須貝 杏子さん

島根大学の須貝杏子です。この度はポスター賞をいただき、ありがとうございました。研究を進めていく上でご指導・ご協力いただきました多くの方々に御礼申し上げます。母校である首都大学で開催された大会で賞をいただきましたこと、大変嬉しく思います。私は、小笠原諸島における樹木種の遺伝構造の形成・維持機構の解明を目指し、研究を進めています。シマホルトノキは、生育環境と開花期の違いにより3つの遺伝的タイプがありますが、今回新たにもう1タイプを見出しました。調査を重ねるごとに現在の状況は明らかになってきていますが、各タイプの分岐の時期や過程など、気になることは未だたくさんあります。小笠原諸島の中で様々な植物が多様化していく機構について紐解くため、小笠原への船旅を続けていきます。今回の受賞を励みに、より一層精進して参りますので、今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

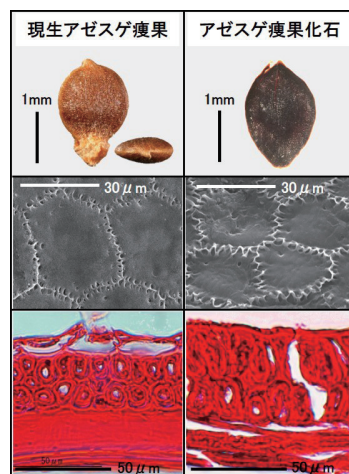


父島・乾性タイプのシマホルトノキ

矢野 梓水さん

この度、ポスター発表賞をいただきました千葉大学の矢野梓水です。初めての分類学会での発表でこのような賞を受賞することができ、大変光栄に思います。本研究は、大学・博物館からの現生標本の提供や野外採集など、多くの方々のご協力によって支えられてきました。この場を借りて御礼申し上げます。

私は、堆積物に含まれるスゲ属アゼスゲ節瘦果化石の種レベルの同定を目的とし、日本産アゼスゲ節25種の現生瘦果の形態比較の研究をしています。湿地性のアゼスゲ節は、瘦果化石がどの堆積物からも頻繁に産出することから、日本の植物地理の形成過程を考える上で重要な材料となります。今回の発表では、日本産アゼスゲ節25種の現生瘦果の外部形態・解剖学的形態を比較し、種ごとの特徴と化石の分類に応用できる形質を報告いたしました。今後は、DNAによる系統解析との比較を進めていきたいです。



現生アゼスゲ節瘦果とアゼスゲ節瘦果化石の形態比較(上段:側面観および上面観, 中段:表皮細胞内部上面, 下段:果皮横断面)

2019 年度第 1 回評議員会議事抄録

庶務幹事 海老原 淳

会場：首都大学東京 8 号館・大会議室

日時：2019 年 3 月 6 日（水）16 時～19 時

参加者

評議員：総数 12 名、() 内は被委任者

出席 [8 名]：秋山 弘之、池田 博、土金 勇樹、内貴 章世、藤井 伸二、村上 哲明、山田 敏弘、綿野 泰行

委任状出席 [4 名]：志賀 隆（藤井 伸二）、副島 顕子（会長）、永益 英敏（会長）、西田 佐知子（内貴 章世）

幹事会・委員会委員長：() 内は役職

出席 [15 名]：伊藤 元己（会長）、海老原 淳（庶務）、厚井 聡（会計）、山本 薫（ニュースレター）、田村 実（編集委員長・英文誌編集）、山田 敏弘（和文誌編集）、黒沢 高秀（日本分類学会連合）、朝川 毅守（自然史学会連合）、布施 静香（講演会）、西野 貴子（野外研修会）、藤井 伸二（絶滅危惧植物専門第一委員会委員長）、大西 亘（植物データベース専門委員会委員長）、池田 博（国際シンポジウム準備委員会委員長）、村上 哲明（ABS 問題対応委員会委員長）、田中 伸幸（標本問題対応委員会委員長）

欠席 [6 名]：阪口 翔太（ホームページ）、藤井 俊夫（図書）、樋口 正信（絶滅危惧植物専門第二委員会委員長）、瀬戸口 浩彰（学会賞選考委員長）、永益 英敏（国際命名規約邦訳委員会委員長）、角野 康郎（旧・植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会委員長）

1. 評議員会開催にあたり、伊藤元己会長から挨拶があった。
2. 庶務幹事により定足数が確認された。会長、評議員 8 名出席、委任状出席 4 名により評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として藤井 伸二 氏が、議事録署名人として秋山 弘之 氏、池田 博 氏の 2 名が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1. 自然史学会連合関連報告 2018 年度活動報告および 2019 年度活動計画の説明がなされた。
 - 4.2. 日本分類学会連合報告 2018 年度活動報告および 2019 年度活動計画の説明がなされた。
 - 4.3. 各種委員会に関する報告
 - (1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『植物地理・分類研究』の昨年度編集状況および 2019 年度出版計画について説明がなされた。
 - (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過の説明がなされた。（委員長欠席のため庶務幹事が代理説明）
 - (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学会論文賞の選考経過の説明がなされた。
 - (4) 植物データベース専門委員会 日本産植物種情報データベース作成に向けて活動していることが報告された。
 - (5) 絶滅危惧植物専門第一委員会 環境省第 5 次レッドリスト改訂のための活動報告と今後の計画の報告がなされた。
 - (6) 絶滅危惧植物専門第二委員会 現状説明と活動報告。（委員長欠席のため庶務幹事が代理説明）
 - (7) ABS 問題対応委員会 村上委員長が AMED から配分された ABS 支援のための予算などを用いて本学会会員の ABS 対応を支援していることなどが報告された。
 - (8) 国際シンポジウム準備委員会 2018 年度のシンポジウム（中国・杭州市）の報告。
 - (9) (旧) 植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会 「地域植物研究会等の現状に関するアンケート

- ート」を終えて、委員会の活動は2018年度で一旦終了した。アンケート結果は和文誌に掲載する意向であることが報告された。(委員長欠席のため庶務幹事が代理説明)
- (10) 国際命名規約邦訳委員会 邦訳委員会の『深圳規約(日本語版)』は2019年6月に出版予定。(委員長欠席のため庶務幹事が代理説明)
- (11) 標本問題対応委員会 本委員会は、経済産業省によるワシントン条約研究機関指定制度が我が国にないこと、および、農林水産省による植物防疫法の運用の一部改正などによってハーバリウム間の交換標本や標本の借用、貸出などに多大な影響が及んでいることから、主としてこの2つのハーバリウム標本をめぐる諸問題に対応するため組織されたこと、今後当委員会を窓口として、農林水産省との協議や経済産業省とのワシントン条約研究機関登録についての対応を行なっていく予定であることなどが説明された。
- 4.4. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況、バックナンバーの販売状況の説明がなされた。(担当幹事欠席のため庶務幹事が代理説明)
- 4.5. ニュースレターに関する報告 2018年度実施報告および、2019年度準備状況の説明。
- 4.6. ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式HPおよびMLの運用状況の説明。2019年4月より、ホームページがWikiからWordPressによる作成に移行する予定であること、メーリングリストについては非会員のアドレスの削除を行い、会員の登録率向上に向けて対応していることが説明された。(担当幹事欠席のため庶務幹事が代理説明)
- 4.7. 会務報告 2018年度の事業報告がなされた。
- 4.8. 会計報告 2018年度の会員状況、会費滞納者の状況の説明がなされた。
- 4.9. その他
- (1) 日本植物分類学会講演会報告 2018年度の講演会の実施について報告された。
- (2) 野外研修会について 2018年実施報告および、2019年度準備状況について説明がなされた。
5. 審議事項
- 5.1. 2018年度事業報告(案)について
海老原庶務幹事より2018年度事業報告(案)が提案され、質疑の後、承認された。
- 5.2. 2018年度決算報告(案)について
厚井会計幹事より2018年度決算報告(案)が提案され、質疑の後、承認された。
- 5.3. 2019年度事業計画(案)について
海老原庶務幹事より2019年度事業計画(案)が提案され、質疑の後、承認された。
- 5.4. 2019年度予算(案)について
厚井会計幹事から2019年度予算(案)が提案され、質疑の後、承認された。
- 5.5. 次期監事の推薦について
役員等の選出についての細則第6条に基づき、池田啓氏、渡邊幹男氏の2名を推薦することが承認された。
- 5.6. 名誉会員の推薦について
伊藤会長より名誉会員の条件を満たす2名の候補があり、審議の結果、今回の総会での推薦を決定した。
- 5.7. 除名について
会費長期滞納者に対する郵送による督促が未実施であることから、今年度は除名は行わないことが説明された。
6. その他
- 6.1. 第19回大会開催地について
第19回大会開催地は未定であることが伊藤会長より説明された。
- 6.2. 総会議事について
海老原庶務幹事より総会議事の説明があった。
- 6.3. 今後の名誉会員推薦候補者の選出方法について
旧植物分類地理学会の会員名簿が保存されていないことから、次年度以降50年会員の特定が困難

になり、確実に把握できるのは25年会員のみであることが海老原庶務幹事から説明された。伊藤会長より、今後は25年間会員の情報と他の情報（出版物の著者等）を可能な限り組み合わせて、公平な選出のために努力していく方針が示された。

6.4. 特別会計（顕彰事業）の使途について

海老原庶務幹事より、特別会計（顕彰事業）については、今年度は執行計画を盛り込まずに、今後慎重に使途を検討していく方針が説明された。

6.5. 『植物地理・分類研究』のバックナンバー web 公開について

『植物地理・分類研究』のバックナンバー公開方法について、データベース委員会を中心に今後対応を検討していく予定であることが説明された。

6.6. 大会ホームページの会期表記について

委員会出席のための所属機関への出張手続きを円滑に行うため、大会期間の表記を委員会開催日も含めるという方針が再確認された。

2019 年度総会議事抄録

庶務幹事 海老原 淳

会場：首都大学東京南大沢キャンパス 1 号館 230 教室

日時：2019 年 3 月 8 日（金）13:00～14:00

1. 総会に先立ち伊藤元己会長から挨拶があった。
2. 菅原敬大会会長（首都大学東京）より挨拶があった。
3. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
4. 邑田仁氏が総会議長に選出された。
5. 報告事項
 - 5.1. 会務報告

庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。
 - 5.2. 会員数について

厚井会計幹事より、会員数の説明がなされた。
 - 5.3. 各委員会からの報告

各委員会のうち、編集委員会、絶滅危惧植物専門第一委員会、国際命名規約邦訳委員会、標本問題対応委員会、旧植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会の各委員長または代理から活動報告がなされた。
6. 審議事項

審議に先立って、出席者数の確認を行い、庶務幹事より総会出席者が95名（後97名）であることを報告した。

 - 6.1. 【第一号議案】 2018 年度事業報告、ならびに 2018 年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が海老原庶務幹事と厚井会計幹事よりそれぞれ行われた。瀬戸口浩彰監事、渡邊幹男監事による、会務および会計が適切であるとの監査結果の報告が行われた。審議の結果、賛成 90 票、白票 7 票で出席者（97 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。
 - 6.2. 【第二号議案】 2019 年度事業計画、ならびに 2019 年度予算案

海老原庶務幹事と厚井会計幹事より本年度の事業計画と予算案の説明があった。ニュースレター 72 号掲載の内容からの変更点として、特別会計【絶滅危惧種調査】においてレッドリスト改訂のための調査委託費 360 万円が追加された旨の説明があった。審議の結果、賛成 94 票、白票 3 票で出席者（97 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。
 - 6.3. 【第三号議案】 次期監事の選出について

役員等の選出についての細則第 6 条に基づき、評議員会から次の 2 名が次期監事として推薦された。審議の結果、賛成多数で承認された。

池田 啓 氏, 渡邊 幹男 氏

6.4. 【第四号議案】 名誉会員の推薦について

会則第 5 条に基づき、条件を満たす以下の 2 名の会員を名誉会員に推薦した。審議の結果、賛成多数で承認された。

柏谷 博之 氏, 鳴橋 直弘 氏

7. その他

7.1. 第 19 回大会開催地について

伊藤会長より次回第 19 回大会について、岐阜大学において 2020 年 2 月 29 日～3 月 3 日の日程で開催することが告知され、川窪伸光大会準備委員長（岐阜大学）より挨拶があった。

7.2. 野外研修会について

西野担当委員より、今年度の野外研修会は秋季に実施する方向で調整していることが報告された。若手の参加者にも積極的に参加してほしいとのコメントがあった。

7.3. J-Stage 上での学会誌公開タイミング

J-Stage 上での学会誌公開タイミングについて会場から質問があり、編集委員長から基本的には出版と同時に公開されることが説明された。

※紙面の節約のため、2019 年度予算案については、次項の第 2 回メール評議委員会で承認された修正を反映させた版を掲載しています。

2019 年度第 2 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 海老原 淳

第 1 回メール評議員会および 2019 年総会で承認された 2019 年度予算案において、「APG 編集補助費」の計上漏れが判明したため、修正予算案審議のためのメール評議員会を開催しました。以下の通り、議事抄録を報告いたします。

開催日時：2019 年 3 月 25 日～4 月 10 日

開催方法：電子メール等の媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例に従い伊藤元己会長を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第 1 号議案 2019 年度一般会計予算案（修正版）

審議結果

1 回の修正を経た後、承認多数で可決された。また、委任状はなかった。

第 1 号議案 【賛成 10 票, 反対 0 票, 白票 3 票】

議事録署名人として池田 博 氏と綿野 泰行 氏が選出された。

2019 年度予算

庶務幹事 海老原 淳

修正のありました予算のみ紙面でお知らせいたします。その他は NL72 号に掲載されている通りです。

2019年度予算 一般会計 (単位:円)

| 収入の部 | 単価 | 数 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|------------|-------|-----|-----------|-----------|----|
| 会費 | | | | | |
| 通常 (一般) | 7,000 | 758 | 5,306,000 | 378,000 | 注1 |
| 通常 (学生/海外) | 3,000 | 98 | 294,000 | △ 21,000 | 注1 |
| 団体会員 | 8,000 | 20 | 160,000 | 8,000 | 注1 |
| APGカラーチャージ | | | 250,000 | △ 236,000 | 注2 |
| バックナンバー販売 | | | 120,000 | 100,000 | 注2 |
| 利息 | | | 100 | 0 | |
| 雑収入 | | | 50,000 | 0 | |
| 合計 | | | 6,180,100 | 229,000 | |

支出の部

| | | | | | |
|------------------------|---------|-------|-----------|-----------|----|
| 大会補助費 | | | 100,000 | 0 | |
| 講演会補助費 | | | 70,000 | 0 | |
| 出版物印刷費 | | | | 0 | |
| APG vol.70 (1,2,3) | 930,000 | 3 | 2,790,000 | 0 | |
| 植物地理・分類研究 vol.67 (1,2) | 700,000 | 2 | 1,400,000 | 0 | |
| ニュースレター No.72-75 | 55,000 | 4 | 220,000 | 0 | |
| 学会誌編集補助費 | | | 250,000 | 10,000 | |
| 英文校閲費 | | | 50,000 | 0 | |
| 出版物送料 | | | | 0 | |
| APG送料 | 100 | 3,100 | 310,000 | 0 | |
| 和文誌送料 | 100 | 2,100 | 210,000 | 0 | |
| NL送料 | 90 | 4,000 | 360,000 | 32,000 | 注3 |
| 会議費 | | | 0 | △ 50,000 | 注4 |
| 学会賞表彰経費 | | | 50,000 | 0 | |
| 自然史学会連合負担金 | | | 20,000 | 0 | |
| 分類学会連合分担金 | | | 10,000 | 0 | |
| 事務局管理費 | | | | 0 | |
| 消耗品費 | | | 50,000 | 0 | |
| 交通費 | | | 50,000 | △ 50,000 | 注4 |
| 封筒等印刷費 | | | 0 | △ 50,000 | 注5 |
| 通信費 (小包手数料を含む) | | | 50,000 | 0 | |
| 手数料・その他 | | | 15,000 | △ 5,000 | 注6 |
| 自動振替集金代行基本料 | | | 3,240 | 0 | |
| 自動振替口座確認手数料 | 130 | 160 | 20,800 | 0 | |
| レンタルサーバー使用料 | | | 27,000 | 756 | 注6 |
| 国際シンポジウム積立金 | | | 200,000 | 0 | 注7 |
| 予備費 | | | 0 | △ 100,000 | 注8 |
| 合計 | | | 6,256,040 | △ 212,244 | |

| | | |
|-----------|-----------|---------|
| 単年度収支 | △ 75,940 | 197,344 |
| 前年度からの繰越金 | 5,151,913 | 230 |
| 次年度への繰越金 | 5,075,973 | 197,574 |

注1：会員数の見直しにより更新。

注2：1月～3月までの実績にもとづく。

注3：前年の実績に基づき更新。

注4：引継ぎ会議を行う必要がないため。

注5：新たに封筒を印刷する必要がないため。

注6：前年度の実態に基づき更新。

注7：2022年の開催及び若手派遣に備えての積立金。

注8：学会誌編集補助費に充てるため。

特別会計 絶滅危惧種調査予算

| 収入 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|---------------------|------------|--------------|----|
| 前年度繰越金 | 7,770,192 | 4,433,152 | |
| 絶滅危惧維管束植物の調査委託費 | 0 | △ 10,000,000 | 注1 |
| レッドリスト改訂のための調査解析委託費 | 3,600,000 | 3,600,000 | |
| 合計 | 11,370,192 | △ 5,966,848 | |

支出

| | | | |
|---------------------------|------------|-------------|----|
| 絶滅危惧維管束植物の調査費 (2018年分) | 3,500,000 | △ 3,350,000 | 注2 |
| 絶滅危惧植物の調査に関連する雑費 (2018年分) | 50,000 | 37,472 | 注3 |
| 事務経費 | 4,220,192 | 4,220,192 | 注4 |
| レッドリスト改訂のための調査解析費 | 3,600,000 | 3,600,000 | |
| 次年度繰り越し | 0 | 0 | 注5 |
| 合計 | 11,370,192 | 1,803,344 | |

注1：新たな委託金が生じないため。

注2：絶滅危惧維管束植物の調査費（各都道府県調査員が現地調査を行うための費用）。環境省の会計年度内（2019年3月）に支出予定。

注3：絶滅危惧植物の調査に関連する振り込み手数料。環境省の会計年度内（2019年3月）に支出予定。

注4：絶滅危惧種調査に関わる事務経費（収集されたデータをとりまとめるための人件費、交通費、消耗費など）。前年度途中に急遽財源（自然環境研究センターに支払われる予定だった事務委託費）が発生したため、2019年1～3月に支出予定。

注5：2019年12月までに支出予定のため。

2018年に到着した交換図書一覧

図書幹事 藤井 俊夫

Candollea 73(1,2)
 Cryptogamie 39(1)
 Flora Mediterranea 27
 Fritschiana 86-89
 Gardenwise 50, 51
 Hoppea 78
 Huntia 16(2)
 Journal of Field Biology 20(1)
 Journal of Plant Biology 60(1), 61(1-5)
 Journal of the National Taiwan Museum 71(1,2)
 Journal of Tropical and Subtropical Botany 26(2-5)
 Kew Bulletin 72(1), 72(4), 73(1-3)
 Korean Journal of Plant Taxonomy 47(4), 48(1-3)
 Life World 315-335
 Novon 25(4), 26(1-3)
 Plant Diversity 39(5,6), 40(1-5)
 Plant Ecology & Diversity 10(4-6), 11(2)
 Reinwardtia 15(2), 16(1,2), 17(1,2)
 Revue Valdotaïne D'histoire Naturelle 71,70
 Smithsonian Contributions to Botany 106, 107

Systematics and Biodiversity 15(4-6), 16(1-4)
Thai Forest Bulletin 45(1-2), 46(1)
Thaiszia 27(1-2)
The Bulletin of the National Tropical Botanical Garden 34(2,3)
The Gardens' Bulletin, Singapore 69(2), 70(supp.), 70(1)
Webbia 72(2), 73(1)
Willdenowia 47(3), 48(1-3)
国立科学博物館研究報告 43(4), 44(1-3)
大阪市立自然史博物館研究報告 71
神奈川県植物誌調査会会報 85
国立科学博物館専報 52
国立科学博物館モノグラフ 48, 49
鹿児島大学農学部演習林研究報告 43
神奈川県立博物館研究報告 自然科学 47
神奈川自然史資料 39
岐阜県植物研究会誌 32, 33
近畿植物同好会会誌 41
近畿植物同好会会報 126, 127
自然史研究 4(1)
植物研究雑誌 93(1-6)
蘚苔類研究 11(11)
長岡市立科学博物館研究報告 53
Journal of Plant Research (日本植物学会) 131(2-6)
Newsletter of Himalayan Botany 50

学会員の方は、兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 アクセス方法は <http://www.hitohaku.jp> をご覧ください）にて閲覧可能です。閲覧希望の方は図書幹事にお問い合わせください。文献複写依頼はお受けできませんので、予めご了承ください。

お知らせ

2019 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

野外研修会担当委員 西野 貴子

2019 年度の野外研修会は、千葉県立中央博物館の天野 誠 氏のお世話で、千葉県の房総半島にある東京大学清澄演習林で秋に行います（日程は決まり次第、学会のホームページにてご連絡いたします）。詳細と募集については、次号にてご案内いたします。お楽しみにお待ちください。

そして、気の早いご案内になりますが、2020 年度の野外研修会は鹿児島での開催を予定しております。

野外研修会では、許可をいただいたところで採集を行い、参加者同士で植物談義を行いながら、ゆっくり歩いて、じっくり植物を観て回ります。標本作製や同定の時間はもちろんのこと、地元の植物や地理的な情報のミニ講演会が行われるときもあります。常連の方、ベテランの方、しばらくおやすみされていた方、そして、初参加や学生の皆さま、どうぞお気軽にご参加ください（特にはじめての方や学生の方は、いろいろ教えてもらえて勉強になります。また、各地からご参加されていますので、生育情報などいろいろ耳にできます）。

日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜）のお知らせ

第 19 回大会準備委員長 川窪 伸光

2020 年の日本植物分類学会大会を、岐阜大学キャンパスで準備させていただきます。春の岐阜大学構内では、東海丘陵要素（植田，1989）のハナノキ、シデコブシ、ヒトツバタゴなどが、順々に開花していきます。もちろん大学の木々は植樹されたものですが、岐阜大学は、興味深い植物たちの自生地のご近所です。伊吹山地、両白山地、飛騨山地を水源とする木曾・飛騨川、長良川、揖斐・根尾川らが氾濫して創り出した岐阜県濃尾平野。そこには、みなさんご存じの東海地域独特の自然が展開します。その岐阜大学で植物分類学徒のみなさんの参加をお待ちします。例年よりも早めの開催となりますので、ご予定の確保をお願いします。

開催期間：2020 年 2 月 29 日（土）～ 3 月 3 日（火）

会場：岐阜大学 柳戸キャンパス（岐阜市柳戸 1-1）

『国際藻類・菌類・植物命名規約（深圳規約）2018 [日本語版]』予約特価販売のご案内

国際命名規約邦訳委員会



藻類・菌類・植物の学名に関する国際的な取り決めである国際命名規約の最新版 *International Code of Nomenclature for Algae, Fungi, and Plants (Shenzhen Code) 2018* の日本語版です。「国際藻類・菌類・植物命名規約」はほぼ 6 年ごとに改訂され、規約は過去に遡って適用されるため、学名の取扱いは常に最新の規約に従う必要があります。今回の改訂では菌類として扱われる生物の学名に関する規定が独立の章 F とされ、雑種に関する規定（これまでの付則 I）が第 II 部の章 H とされるなど、構成に大きな変更がありました。また規約の運営に関する第 III 部が全面的に改訂されたほか、規約で用いられている用語や概念についても修正が加えられています。翻訳は日本植物分類学会国際命名規約邦訳委員会が担当し、国際植物分類学会から日本語版として承認されています。

■日本語版仕様：B5 判 300 ページ 上製本（2019 年 6 月刊行予定）

■頒布価格：1 部 2,700 円（税・送料込み、別途郵便払込手数料がかかります）

※予約特価：2019 年 6 月 20 日までに申し込んだ場合に限り、1 部 2,200 円（税・送料・郵便払込手数料込み）。

■申込方法：次の必要事項をご記入の上、Fax または e-mail で申し込んでください。

1. 氏名 / 2. 送付先郵便番号 / 3. 送付先住所 / 4. 電話番号 / 5. FAX 番号 / 6. e-mail アドレス / 7. 必要部数 / 8. 公費支払をご希望の方は必要書類と通数、宛先等の情報（例：見積書、請求書、納品書各 1 通）。

■支払方法：2019 年 6 月 20 日までお申し込みの予約分につきましては、日本語版に郵便払込用紙を同封して発送しますので、ご送金ください。

2019 年 6 月 21 日以降のお申し込み分からは料金先払いとなります。まず、ご指定の住所に郵便払込用紙をお送りし、入金確認後に日本語版を発送致します。

■申込先および問合せ先：(株)北隆館 編集部 角谷裕通（〒153-0051 東京都目黒区上目黒 3-17-8）

E-mail : hk-ns2_at_hokuryukan-ns.co.jp（_at_ を @ に置換してください）

Tel.03-5720-1161 / Fax.03-5720-1166

東京大学植物標本室（総合研究博物館）の一時閉室のご連絡

池田 博・清水 晶子（東京大学総合研究博物館）

東京大学植物標本室 (TI) 所蔵の標本は、大学院理学系研究科附属植物園（通称 小石川植物園）と総合研究博物館とに分けて収蔵されています。小石川植物園にはシダ類、裸子植物、被子植物（双子葉合弁花類）が、総合研究博物館には被子植物（単子葉類と双子葉離弁花類）が収蔵されています。

総合研究博物館では、この秋より耐震工事がおこなわれ、博物館への出入りが制限されます。そこで、この8月より耐震工事が終了するまで、総合研究博物館の植物標本室を一時閉鎖し、標本の閲覧を中止させていただきます。

耐震工事の終了時期は未定ですが、工期はおおむね半年くらいが予定されています。今後の予定についてはホームページ <http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DShokubu/> でお知らせします。

ご不便をおかけしますが、どうぞご了承くださいようお願い致します。総合研究博物館の標本（単子葉類、双子葉離弁花類）の閲覧を予定されている方は、早めにご連絡ください。なお、小石川植物園の標本室は通常通り開室しております。

連絡先 (TI 共通アドレス) : ti_herbarium_at_ns.bg.s.u-tokyo.ac.jp (_at_ を @ に置換してください)

書評

『みえ生物誌 植物』

三重県自然誌の会 / 発行

三重県の植物誌としては、1951年の伊藤武夫による「三重県産生物目録植物の部 顕花植物及羊歯植物」（『三重県産生物目録』に収録）以来じつに68年ぶりの包括的な植物誌である。山本和彦氏をはじめとする10人を超えるメンバーが20年近くの歳月をかけて現地調査、標本調査、文献調査を行った結果を集大成したもので、749頁にもなる大作だ。標本引用をともなった信頼性の高さが特徴である。標本の所在が明示されていることから、今後の研究や再検討の礎として三重県の植物相研究への多大な貢献が期待される。

1冊10,000円（送料別）。購入の申し込みは以下の連絡先へ。送料と支払い方法は申込時に確認のこと。

申込先：三重自然誌の会事務局 清水善吉 宛て

E-mail : shimizuzenkichi_at_gf7.so-net.ne.jp (_at_ を @ に置換してください)

電話：090-9262-4665

(藤井伸二, 人間環境大学)

